平成27年度　各種調査結果を活用した学力向上の取組事例

事務所名	中部教育事務所	学校名	北上市立北上中学校	TEL	0197-63-3129

「カリキュラム・マネジメント」と「**OJT** システム構築」の両翼による学力保障
～持続可能な研修システム（授業改善＆人材育成＆学力保障）確立の試み～

【今年度の目標】

（１）授業をお互いに公開＆参観できる全校での **OJT** システムの構築を図る。
（２）「わかる授業」の要素を共通理解し、「より品質の高い授業」を全校で提供する。
（３）２年目研修、３年目研修、訪問指導の機会を活用し、校内研修システムの構築を図る。
（４）各種調査における「授業がよくわかる」「わかる」と回答する生徒が８０％を超える。
（５）各教科において白紙回答を減らして、「書くこと」「表現する力」の学力向上を図る。
（６）諸調査において全教科が県平均を上回るよう、評価規準を分析して評価問題作成に取り組む。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

（１）■ **CAP-D** サイクルの実施

平成２６年度は年３回の校内研しか設定されていなかった。もちろん明らかに不足していた。そこで、「**C** ８月には計画の見直し」を始め、「**A** ２学期の校内研や職員会議において新しい試みの提案」を始めた。具体的には、①２年目研修の **AR**（アクションリサーチ）の開始に合わせて、全員で **AR** に取り組みたいこと。②全職員が授業を最低１回は公開し **OJT** の活性化を図ることを提案した。「**P** ２月には次年度計画(上記目標等)を設定」し、「**D** ４月からの実践」につなげた。

（２）■教務部＆研究部の両翼 **Two-wings** による組織的な学力保障

学力保障の取組は、前年度のような教務部、研究部単独の取り組みでは共通実践までは至らない。その点を改善し、学力保障の土台として横断的に「太い幹」を育てたいという願いのもと、教務部の年間カリキュラムと研究部の研修計画をタイアップして、両翼による力強い運営を狙った。

●教務部「カリキュラムマネジメント」による学力保障

PUT（Power Up Trial　パワーアップシリーズ）

- ■ **PUG　Power Up Guidance**　全校学習ガイダンス集会　（年２回）
- ■ **PUW　Power Up Week**　家庭学習強化週間　（年３回）
- ■ **PUC　Power Up Challenge**　クラス対抗全校基礎学力テスト（年５回）
- ■ **PUT　Power Up Time**　全校補充学習　（年１０回）
- ■ **PUN　Power Up Note**　学力アップノート　（毎日提出）

○教務部と生徒会学習委員会との連携（学習時間集計＆テスト結果集計、表彰等）
○学区内小学校との連携（３校交流授業参観と情報交換会、家庭学習強化月間の設定）

●研究部「**OJT** システム構築」による学力保障

○「わかる授業」と「できる授業」の指針設定〈共通実践の手立て〉
　①板書の工夫　②アウトプット重視　③グループ＆ペア学習の活用
　④豊富な練習時間の確保　⑤振り返りの設定
○全教職員の **AR** への取り組み（個人課題設定＆授業実践＆レポート作成）
○１人１授業公開（教科の枠を超えた９教科による学力保障）
○授業参観シートの活用と共有（授業を見る物差し「評価規準」の確認）
○ワークショップ型研修会の充実（**AR** テーマ毎のグループ作り）
○市内への拡大校内研修会の呼びかけ
○各種調査問題の落ち込み領域の類題作題と定期テストへの出題

【具体的な取組】

（１）調査結果の分析と課題の把握

①県学調、全国学調のテスト結果

■平成２６年度　県学調

	国語	数学
H26　１年	56.3	61.7
岩手県	56.1	63.0
県　比	100.4	97.9

■平成２７年度　県学調

	国語	数学	社会	理科	英語
H27　２年	67.3	52.3	48.6	61.6	48.7
岩手県	66.2	52.8	46.2	55.8	47.7
県　比	101.7	99.1	105.2	110.4	102.1

■平成２６年度　県学調

	国語	数学	理科
H26　２年	63.9	50.1	60.9
岩手県	62.9	54.8	55.8
県　比	101.6	91.4	109.1

■平成２７年度　全国学調

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
H27　3年	79.3	68.1	57.8	38.6	54.6
岩手県	75.5	64.8	60.1	36.7	50.7
県　比	105.1	105.1	96.2	100.7	107.7

【考察①】

H27年２年生の結果を領域・観点別に見ると、国語、理科、社会では県平均を下回る領域は無い。英語は表現の能力が県比－1.1、数学は数と式、数量が県比－2.1と劣った。大きな伸びが見られたのは国語の「書くこと」が県比＋14，数学の「数学的な考え」が県比＋14、社会の「社会的な思考・判断・表現」が県比＋7、理科の「科学的な思考・表現」が県比＋8など思考・表現の能力である。H27年３年生は昨年と比較して、特に「B問題（活用問題）」において大きな伸びが確かめられた。

②質問紙調査の結果

ア「授業がよくわかる」「授業がわかる」と回答した生徒の割合

【H27　2年生】　＊H27.7は本校独自の実施

実施時期	H26.10	H27.7	H27.10	H27.12
国　語	84%	81%	79%（84）	
数　学	77%	60%	47%（70）	76%
社　会	78%	85%	88%（80）	
理　科	85%	91%	89%（81）	
英　語	69%	71%	67%（64）	

＊(　)は岩手県の平均

【H27　3年生】

実施時期	H26.10	H27.7
国　語	93%	93%
数　学	55%	67%
社　会	75%	80%
理　科	89%	74%
英　語	53%	67%

３年生は数学、社会、英語において、「授業がわかる」割合が10月より回復した。

イ「他の質問」への回答の割合

■授業の中で自分の考えを発表する機会がある　86%(85)
■授業のはじめに目標を確認している　88%(88)
■最後に授業を振り返る活動がある　75%(77)
■話し合いを通じて、考えを深める場面がある　88%(82)

【考察②】

H27年２年生の数学への回答の経緯は「７７%→６０%→４７%」と下降しており、７月の時点で教科部会でも対策を立てたが、それでも１０月は低下した。しかし、授業を見ると「丁寧な既習事項の復習、新出事項との関連づけ、生徒の言葉による課題設定、簡潔で丁寧な教師の説明、練習問題への取り組み、振り返り活動」が位置づけられており、決して「わからない授業」ではなかった。

そこで、１２月に再度同一のアンケートを採ると、図形領域に入っていたこともあり「よくわかる、わかる」の割合が７６%に上昇していた。つまり７月、10月のアンケート実施時は文字式等の単元であり、「小数点や分数の計算、正負の移項などの計算」を苦手としている生徒が多く「わからない」と回答したことが判明した。今後 **PUC** でも、「計算」を全校の課題として重点的に取り組みたい。

「発表の機会がある」「友達との話し合いの場面がある」の質問に対する高い回答は、今年の本校の授業改善の重点が反映された結果であると思われる。それは、テスト結果にも結びついている。

③今年度導入された新しいテストの結果

■平成２７年度「中学１年生テスト」

	国語	数学
H27　１年	67.7	72.4
岩手県	69.1	74.0
県　比	98.0	97.8

■平成２７年度「高校１年生テスト」

	国語	数学	英語
本校卒業生	71.4	75.3	72.2
岩手県	67.4	70.4	70.2
県　比	106	107	103

【考察③】

テストの対象生徒が違うため比較はできないが、「本校への入学時は岩手県平均を下回っているが、３年間を過ごして卒業後は県平均を大きく上回っている」と言える。上記卒業生の平成24年中学1年の県学調も県比で〈国語＋3、数学＋2、英語－1〉であり、この結果からも伸びが認められる。

（２）学校の課題解決に向けた取組

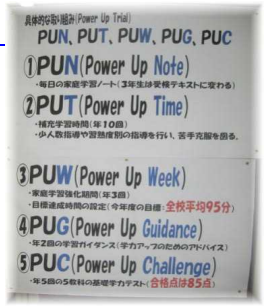
①北中 **PUT**(Power Up Trial)の取組

定期テスト前は部活動も停止し、「家庭学習強化期間」を設定して学習習慣の定着を図っている。年間10回の補充学習日をパワーアップタイム **PUT**、学びフェストの目標値や効果的な学習方法を生徒に提示する全校学習ガイダンスをパワーアップガイダンス **PUG**、それら取り組みの総称を、パワーアップトライアル **PUT** とネーミングも一新。学力向上取組を生徒会活動にも位置づけた。

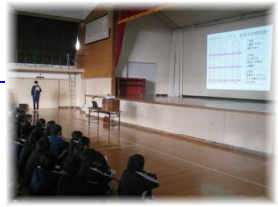
■■カリキュラムマネジメントによる学力保障の取組例■■■

実 施 時 期	**PUT** パワーアップシリーズ ＆ 小中連携の内容
５月　８日（金）	小中連携授業参観＆情報交換会
５月２９日（金）	１学期中間テスト
６月　３日（水）	補充学習日　**Power Up Time**
５日（金）	基礎学力テスト　**Power Up Challenge** ①国語
１７日（水）	全校学習ガイダンス　**Power Up Guidance** ①
１８日（木）	家庭学習強化週間　**Power Up Week**
２４日（水）	小中３校授業公開「フリー参観日」
２６日（金）	補充学習日　**Power Up Time**
２９日（月）	１学期期末テスト
３０日（火）	１学期期末テスト
７月　３日（金）	基礎学力テスト　**Power Up Challenge** ②数学
１０日（金）	補充学習日　**Power Up Time**
８月２６日（水）	小中連携授業参観＆情報交換会
２８日（金）	補充学習日　**Power Up Time**
９月１１日（金）	補充学習日　**Power Up Time**
	家庭学習強化週間　**Power Up Week**
１０月　２日（金）	補充学習日　**Power Up Time**
５日（月）	２学期中間テスト
１５日（木）	基礎学力テスト　**Power Up Challenge** ③英語
１１月　９日（月）	小中連携授業参観＆情報交換会
１３日（金）	補充学習日　**Power Up Time**
１７日（火）	全校学習ガイダンス　**Power Up Guidance** ②
２４日（火）	２学期期末テスト
２５日（水）	２学期期末テスト
１２月　４日（金）	基礎学力テスト　**Power Up Challenge** ④社会
１１日（金）	補充学習日　**Power Up Time**
１月２９日（金）	補充学習日　**Power Up Time**
２月１５日（月）	３学期期末テスト
１６日（火）	３学期期末テスト
２３日（火）	基礎学力テスト　**Power Up Challenge** ⑤理科
２６日（金）	補充学習日　**Power Up Time**

【**PUT** 校内掲示】



【**PUG** 学習委員会】



②「わかる授業作りの要素」を共有

わかる授業の構成要素を「１　新出事項を既習事項に関連づける復習」、「２　学習課題の確認」、「３　アウトプット活動の活性化」、「４　振り返り場面の設定」、「５　十分な練習確保」と確認して、９教科で共通実践として取り組んだ。

【授業参観シートに示した授業を見る７つのポイント】

1　復習が位置づいている（既習事項と結びつけて新出事項を導入している）。
2　学習課題が生徒の意欲と結びついて提示されている。
3　わかりやすい説明がなされている。
　■簡潔な説明　　■具体的な行動指示　■適切な助言
4　アウトプット、表現活動、実技の場面が取り入れられている。
5　ペアやグループ学習の場面が取り入れられている。
6　学習内容の振り返りの場面が設定されている。
7　十分な練習時間が確保されている。

③定期テスト＆基礎学力テストの作題の工夫（全国学調、岩手県学調レベルの作題）

定期テストでは、各種調査の落ち込み領域の類題を作題して出題した。達成度を追跡しながら、クリアできるまで出題を試みた。このことにより、教師の作題能力が高まることも期待した。

また、全校生徒が参加する「基礎学力テスト（パワーアップチャレンジ）」を年間５回設定している。昨年度は漢字、単語、計算などの基礎的事項が大半であった。今年度は学習指導要領や評価規準の設定例を参考に、各教科で全国学調や県学調の活用問題レベルの作題への取り組みも始めた。

④全職員による **AR**(アクションリサーチ)の取組＆１人１授業公開の取組

授業力の向上や授業改善に向けて、教師１人１人が最低１回は自分の授業を公開し、お互いにアドバイスできる機会を設定した。授業参加シートを活用しながら、授業参観の視点も共通理解を図った。授業後は可能な限り教科部会も開催して、共通実践の確認を行った。

また、授業参観や研究会は教科グループを中心とするが、外部機関への協力要請、北上市内の各中学校への「拡大校内研」の呼びかけも１０回程度行った。

■ ■ **OJT** システム構築による学力保障の取組例 ■ ■ ■

授業公開日	氏　名	担当教科	○アクションリサーチ「個人テーマ」の抜粋
〈１学期〉			
６月19日	熊谷真帆	国語	思考力を育てる「話し合いスキル」の習得
	■２年目 **AR** 研修		
6月22日	■ **AR** 全体校内研		講師：岩手県教育委員会　遠山秀樹　主任指導主事
7月 9日	石積康弘	英語	Output重視で「わかる」と「できる」をつなぐ授業
15日	髙橋長春	数学	わかる授業作り、板書と発問の工夫
15日	佐藤真貴	英語	表現力向上のための積極的な音読指導
	■ **AR** 計画作成（一覧を作成して全職員に配布）		
〈2学期〉			
9月 1日	佐々木智恵	英語	Outputを見通した課題設定の工夫
1日	藤原英文	数学	グループ活動と振り返りの場を設定した授業作り
3日	小田島達哉	技術	技術科における「理解深化課題」と評価の在り方
	■ **AR** 全体校内研		
18日	菊地仁美	美術	効果的な資料提示と鑑賞における言語活動の充実
24日	青木文重	理科	自己評価(Ｐ－フォリオ)を取り入れた授業作り
10月 8日	小原　茂	音楽	意欲的な表現活動のためのグループ学習の仕方
9日	門屋なつみ	国語	言語活動における評価の工夫
21日	熊谷真帆	国語	思考力を育てる「話し合いスキル」の習得
	■２年目 **AR** 研修		
29日	佐々木美香	社会	思いや考えを伝え合うことのできる生徒の育成
11月 2日	新井哲士	美術	効果的な資料提示と鑑賞における言語活動の充実
2日	松岡明子	体育	効果的なペア活動、グループ活動の在り方
5日	近藤久美子	理科	理解深化に結びつく課題設定と評価の在り方
5日	鈴木さき	国語	効果的な振り返りと評価を設定したわかる授業
10日	中村輝美	理科	課題と振り返りサイクルを確実にした学力保障
13日	佐々木智恵	英語	Outputを見通した課題設定の工夫
18日	加藤祐輔	数学	効果的な課題設定と評価問題の工夫
	■全体校内研		
20日	髙橋久子	特支	個々の実態に応じた教材・教具の工夫
30日	佐藤弘子	体育	効果的なグループ学習はどうあれば良いか
12月 2日	生駒大輔	体育	グループ学習における運動の場と練習方法の工夫
2日	菊地晃秀	社会	表現活動と自己評価を活かした授業作り
2日	細田郁子	理科	確実な理解確認のための小グループの実験の工夫
8日	菊池秀貴	数学	段階的評価問題の活用と分析を通したわかる授業
9日	髙橋勝彦	体育	技術習得を効果的に学習する方法の工夫
9日	及川恭子	家庭	基礎・基本の定着を目指した学習内容の工夫
10日	齋藤ルミ子	音楽	表現力を高めるための指導の工夫
11日	晴山雅恵	国語	書写における評価の工夫
15日	佐々木健	社会	表現力と学習意欲を向上させる授業
18日	関　美保子	家庭	生活の中で実践につながる教材の工夫
22日	■ **AR** 中間レポート作成（印刷、製本して全職員で共有）		
〈3学期〉			
２月22日	髙橋　玄	数学	目標明確化と振り返りの強化によるわかる授業作り
	■ **AR** まとめレポート作成（印刷、製本して全職員で共有）		

【成果】

■教師＆職場の変容

（１）授業改善や校内研修 **OJT** に取り組む意識が高まった。　〔校内アンケート結果より抜粋〕

【自分の変化】

ア	授業構成の工夫や授業改善に関する意識が強くなった。	90%
イ	授業改善や授業作りに充てる時間が増えた。	38%
ウ	他の先生の授業に対する興味や関心が高まり、授業の見方＆視点が変化した。	66%
エ	日常で「授業」について意識したり、会話したりする頻度が増えた。	36%

【職場の変化】

ア	授業構成の工夫や授業改善に関する意識が高まったと感じる。	55%
イ	教職員の授業に対する興味や関心が高まったと感じる。	77%
ウ	校内研修会に参加する意識や姿勢、協議の際の課題意識が深まったと感じる。	63%
エ	校内で授業や学力について話題にする頻度が増えたと感じる。	41%

○負担感が大きい 0%　○少し負担がある 55%　○あまり負担感はない 45%

２０代のコメント

■定期テストを作成する時、県学調や全国学調を参考にして問題を作るようになった。アクションリサーチのテーマを意識して、言語活動や授業構想をするようになった。
■私が授業を見学している時、授業者の先生や他の先生が「～すればもっと良い」、「この授業のここが良い」というのを教えてくださった。アドバイスもいただいた。研究協議でも他の先生が私のテーマを知っているので、そのテーマについて深く聞くことも出来た。
■「振り返り」を取り入れた授業を多く見ることができた。
■授業の流れや課題構想について、他の先生と話したり、アドバイスをいただく機会が増えた。
■校内研では同じ研究テーマを持った先生方と意見交流ができるので、自分の授業にも、話題になった事や他の先生の実践を取り入れてみたい。
■ **AR** のテーマを決めることで、他の先生方の授業のどこを見たら自分の為になるか、ポイントをしぼって授業を見るようになった。
■授業づくりについて話す機会は、絶対に増えたと思います!!
■自分自身の授業に対する意識に変化があります。校内研の協議では、課題に沿った意見が頻繁に出ていると思います。
■校内で他教科との関わり合いも増え、新しい発見があり勉強になる。

３０代のコメント

■授業で行おうとしていることを職員室で見せ合うなど、先生方の「教材研究の意識」が向上しているように思います。
■教科の枠を越え、先輩方の様々な意見を伺う機会が増え、とても勉強になりました。
■忙しさに負けて、授業が自分にとって楽な方に流れがちだったので、もっと時間を有効に使えるよう努力し、授業研究に勤しみたいと思うようになりました。

４０代のコメント

■いただいた授業参観シートをコピーして大切にしています。良い授業作りへの意欲になりました。
■明らかに授業を見る視点が変わりました。校外等で参加する授業や研究会も「自分の物差し」で評価できるようになり、自分なりに吸収できるようになりました。
■他の先生の授業に対する興味は強くなった。全体的にも意識の高まりを感じる。
■自分自身の中の意識が大きく変わったことが一番かと思います。
■校内研究として、全員が同じベクトルで取り組んでいるという体制が良いと思います。
■職場に「より授業を大切にする意識」が高まり、大事にするポイントが共有された。

５０代のコメント

■校内研への参加意識が以前より高くなった。若い先生方が、どんどん授業改善に取り組んでいて、逆に勉強になっている。
■他の先生によって自分の意識がとても刺激された。
■「良い授業をしたい」という意欲は、全体的に高まっていると思います。

（２）深化型ワークショップ校内研が大きく盛り上がり、内容も充実した。
（３）授業作りのポイントや授業参観の視点を活かした授業に変わってきた。
　① ５教科が **Output** を、実技教科が **Input** を重視するようになった。
　② ９教科の授業に「共通実践」が見られるようになった。

例）課題の設定の板書、ペア学習＆グループ学習の活用、発表＆表現活動の設定、ホワイトボードの活用、作戦会議、十分な練習機会の設定、振り返りの場の設定

（４）類題作題による作題意識や作題能力のスキルアップがされた。

■生徒の変容

（１）生徒の思考力・表現力が伸び、学習指導要領の「活用」に関する正答率に伸びが見られた。
（２）生徒たちの学習への意欲が高まり、特に授業中のペア活動やグループ活動の内容が高まった。